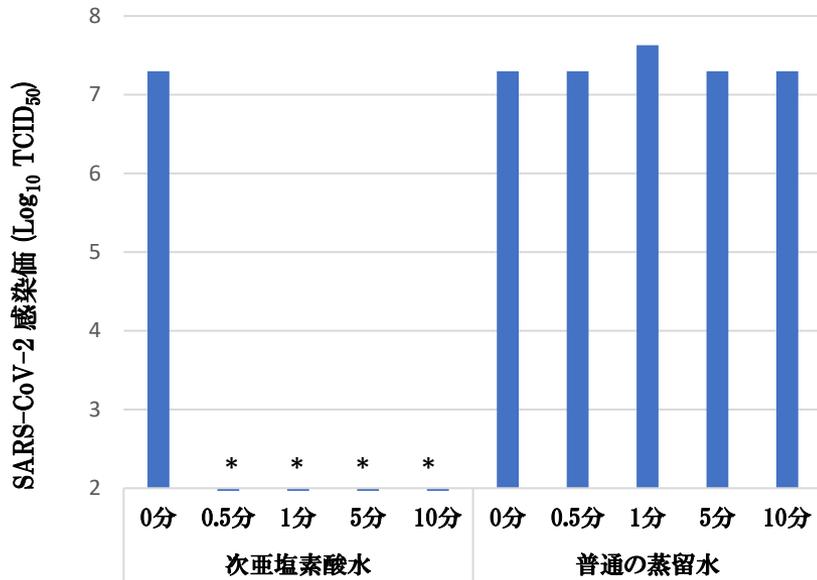


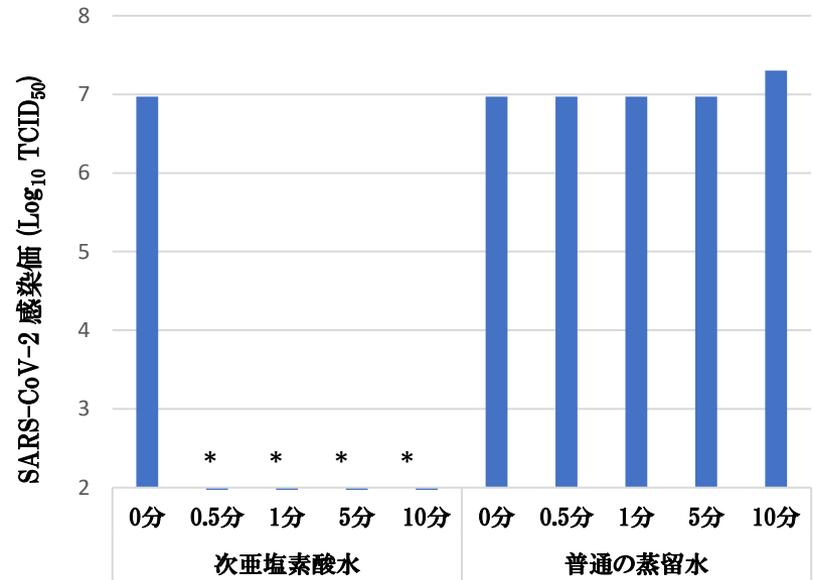
# 次亜塩素酸水処理によるSARS-CoV-2の不活化

1回目(5月25日～28日)



\*検出限界以下( $\leq 10^{1.8}$  TCID<sub>50</sub>/ml)

2回目(5月27日～30日)



\*検出限界以下( $\leq 10^{1.8}$  TCID<sub>50</sub>/ml)

次亜塩素酸水: pH 5.5、有効塩素濃度=40 ppm; ウイルス: JPN/TY/WK-521株

- 供試水: ウイルス液(DMEM, 2%FCS含) = 19:1で混合
- 反応時間: 30秒、1分、5分、10分(室温は、1回目、2回目とも23℃)
- 中和と培地調整: 1/10倍容の0.012Mチオ硫酸ナトリウム液添加の後に、1/10量の10XMEM、1/50量のFCS、適量の重炭酸ナトリウム(pH調整のため)添加
- DMEM (2%FCS含)で10倍階段希釈
- 50 μl DMEM (2%FCS含)が入っている細胞(96穴プレート: TMPRSS2発現Vero E6)に、各希釈4穴に50 μlを添加。
- 3日後、CPE確認、TCID<sub>50</sub>/ml算出
- 電解質(食塩+塩酸)

試験実施場所: 北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター  
 試験実施者: 高田 礼人  
 試験実施日: 2020年5月25日～5月30日